

# 「いじめではない」なぜ

## 旭川・中2女子死亡 母に聞く

北海道旭川市で今年3月、自宅を出た後に行方不明になっていた市立中学2年の広瀬爽彩さん(当時14)が遺体で見つかり、市教育委員会の第三者委員会が過去のいじめの有無などを調べている問題で、母親が5日、朝日新聞のインタビューに応じ、「学校からは『法に触れるようなことだが、いじめではない』と言われた。いじめがなければ、こんな結果にならなかった」と明かした。

また、広瀬さんが中1だった2019年6月、トラブルになっていた生徒らの前で「死にたい」と言っていた川に入り自殺を図っていたことが、北海道教委が遺族に開示した文書でわかった。

母親によると、広瀬さんは中学入学後の19年4月後半から自室に閉じこもるようになった。「中学に入ってからやる気満々な感じだった

### 「学校は『法に触れるようなことだが…』」

が、部屋で泣いたり、誰かに謝ったりするような声が聞こえるようになった」。5月の夜には先輩らから呼び出され、「絶対行かなきゃ」と泣きながら訴えたため、母親が外に行くのを思いとどまらせたという。

道教委の開示文書などによると、広瀬さんは19年4月中旬、他の生徒らに求められて自身の画像をLINEで送った。その後も同様のことがあった。母親によると、「画像はあまりにひどいものだった」という。

さらに6月、広瀬さんはこれらの生徒らと公園に一緒にいる時にパニック状態になり、「私のことは誰も分かってくれない。死んできます」などと言いながら近くの川へ入ったという。

広瀬さんはその後、入院した。母親は、広瀬さんのスマートフォンを見ていじめを疑い、道警や学校に相談。「学校からは悪ぶさげ

だとか、いたずらの度が過ぎただけだとか言われた。最後には、法に触れるようなことだが、いじめではないと言われた」と振り返った。8月下旬〜9月、生徒らが母親に謝罪する場が学校で設けられた。

市教委の報告を受けた道教委は10月3日付の文書で、「客観的にみていじめが疑われる状況。川に入った際、『死にたい』と繰り返し訴えていることから『心身の苦痛を感じている』ことが考えられる」と指摘。いじめと認知し、謝罪と今後の対応について、双方の保護者の共通理解を図るなどの必要があるとして、市教委を指導するとした。市教委によると、すでに生徒らの謝罪が済んでおり、具体的な対応はしなかったという。

広瀬さんは19年夏に別の市立中に転校したが、ほとんど通えず、登校しても過呼吸になったり吐いたりした。通院も続け、PTSD(心的外傷後ストレス障害)と診断されたという。

母親は「なぜいじめではないという判断になったのか。いじめがなければ、こんな結果にならなかった」と話した。市教委の黒崎真一教育長は「個別な状況についてはコメントを控えている」としている。

(本田次郎、井上藩)

母親が開示した広瀬さんの写真

■これまでの経緯	2019年4月	広瀬爽彩さんが北海道旭川市立中学校に入学
	6月	他の生徒らに求められて自身の画像を送る
	8~9月	川へ入り自殺を図る
	10月	生徒らが母親に謝罪
		道教委が、いじめの疑いがあるかと考え対応するよう市教委に求める文書を作成
	21年2月	広瀬さんが自宅を出た後、行方不明に
	3月	凍死体で発見
	4月	文春オンラインが報じる市総合教育会議が、いじめの疑いの重なるよう市教委として調査するよう市教委に求める
	6月	市教委の第三者委員会が調査開始
	8月	代理人弁護士が会見し、母親の手記と広瀬さんの名前を公表